



●日本の美しい色風景について

学会のホームページには、「日本の美しい色風景」という投稿のサイトがあり、私も時々投稿させていただいています。

タイトルから読み取ると、地理的に「日本国に限定」し、投稿者の感覚に任せた「美しい」「カラーの風景写真」の投稿を促しています。勿論、これで十分ではありますが、時季を限定して、更にテーマを限定した特別バージョンの募集を行ったら如何でしょう。

追加するテーマは「色名」です。私の希望を紹介します。「桜色」、「ばら色」、「牡丹色」、「なでしこ色」、「つつじ色」、「かきつばた色」、「しょうぶ色」、「あやめ色」です。花の色ですから、時期を選んで植物園などに撮影に行ってください。「バラ園」で、「ばら色」に相応しい色の薔薇の写真を選んで投稿してください。白い薔薇や黒い薔薇を選ぶ人はいないでしょう。多くの人が投稿してくださると、「ばら色」に相応しい色が統計的に特定できます。「かきつばた色」、「しょうぶ色」、「あやめ色」では、その差が明らかになる可能性もあるかもしれません。

他に「東雲色」も考えてほしい色名です。担当の方に時間があれば考えてくださるようお願いいたします。 (永田泰弘)

言葉凸凹 浅葱色と浅黄色

色度計という物。可搬で屋外などの目に見える物の色度座標値を求められないかと頼まれた装置の話です。

実際の制作は別の人が行ったのですが、四角の窓に B,G,R のフィルターを使った加色混合器です。

使う光源の分布と各フィルターの透過率から3色のフィルターの面積の変化で作られる混合色の色度を計算で求めます。バランスが良ければ「白」く見えます。

混合色と試料が並んで見えるように工夫して肉眼で観測します。試料と同じ色に見えるフィルターの位置から色度値を求るという物です。これは実験用の特注品ですが今ではパソコンを使ってモニター上で容易に加色法の実演が出来るのでより簡便な装置が可能と思います。学生実験で色度値を求める分光器を使った実習をしましたが、むしろテレビ画面やモニター上の色点の色度を求めるとしたらどうするか？ そのような思考と実験が色度図の理解に繋がるのか？ そうすれば X,Y 座標系と等差色度図 U,V 座標系の理解、そして色度図の利用方法への展開があるのか？ 手持ちの道具で実習できそうな気がします。 (小川 梓)

●大辞泉ひろいよみ 59 ーき・く

金襴＝きんらん。綾地または縹子地に金糸で文様を織り出した織物。袷・能衣装・帯地・袋物・表装などに用いる。

金緑色＝光が反射して金色を帯びて見える緑色。

金縷＝きんる。金の糸。また、金色の糸。

金鈴＝きんれい。金製のすず。金色のすず。橘の実の例え。

金蓮花＝きんれんげ。仏前に供える金色のレンゲの造花。こんれんげ。

金鑑＝きんろう。金・銀・銅・亜鉛・カドミウムなどからなる合金。金製品の接合に使う。

空白＝書類などの書き込むべきところに、何も書いてないこと。また、その部分。継続しているものの一部分が欠けていること。何も存在しないこと。また、そのさま。

黄金＝くがね。金。こがね。

草色＝青みがかった緑色。もえぎ色。草葉色。

草木染め＝草や木の天然の色素を使って染めること。また、染めたもの。

草紅葉＝秋、草が紅葉すること。また、色付いた草。くさのもみじ。

具墨＝ぐずみ。胡粉に墨を加えた絵の具。青黒い色を呈する。 (永田泰弘)